

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月間情報誌

第113号 発行日 2017年5月31日

Contents

- ・JN協会理事会を開催 1
- ・4月の訪日客単月で過去最高 1
- ・通常総会記念講演 2
- ・COLUMN 少子高齢化社会 2
- ・観光列車を見る③ 3
- ・観光と鉄道(4) / NEWSPOT G6諺で 4
- ・アメリカこぼれ話 49 / 火の接吻 5
- ・霞が関通信 / カリブ海駆け足旅行記(3) 6
- ・関西覇負② / 観光立国セミナー 7
- ・気象と天気の話 / 編集後記 8



写真:うどん県旅ネット <http://www.my-kagawa.jp/>

1915年、大正天皇の即位の礼にあたり、大嘗祭に綾歌群山田村(現綾川町山田)の米を献納したことが起源。当時の田園風景を再現した祭りで、毎年6月下旬の日曜日に開催される。

JN協会第16回通常総会開催

久恒啓一氏が記念講演「図で考えれば、世界が見える！」
～大観光時代とグローバル言語～

NPO法人「JAPAN NOW 観光情報協会」(大島慎子理事長)は5月17日(水)、東京麹町の海事センターで第16回通常総会を開き、平成28年度の事業計画と予算を承認し、平成29年度の事業計画と予算を決めた。

総会の冒頭、大島理事長が挨拶し、「今期は平成13年、小泉首相の「観光立国宣言」を受け、設立されてから16回目の総会である。出版企画“城と街道(みち)”への支援協力など新しい企画にも取り組んでいきたい」と述べた。

29年度の事業計画では、会員各位の協力により、個人、団体会員の増加に取り組み、情報紙「JAPAN NOW」の紙面充実とホームページの拡充をより一層進めるとともに、従来同様、各地での講演会を随時開催する。現在、10月には中部地区で観光立国フォーラムが予定されている。又、多彩な講師による観光立国セミナーも月一度の頻度で開催する。

総会終了後は、日本航空出身で、現在、多摩大学副学長の久恒啓一氏による「図で考えれば、世界が見える！～大観光時代とグローバル言語～」と題する講演を行った(その概要は2面に掲載)。

講演会の後、懇親会に移り、講師の久恒啓一氏を囲んで、意見交換を行った。

JN協会講師派遣による地域観光振興 支援を強化

インバウンドに向けた観光づくり、地域観光の基盤づくり等、JN講師の経験実績による講演・コンサル活動を推進します。

4月の訪日外客数は前年同月比で 23.9%増の257万9千人!

単月で初めて250万人を突破で過去最高。韓国人が56.8%と大幅増

J N T O(日本政府観光局)の発表によると、2017年4月の訪日外客数は、前年同期比23.9%増の257万9千人で、単月として過去最高を記録した。これまでの単月過去最高は2016年7月の229万6千人であった。

昨年4月は熊本地震の影響で韓国からの訪日旅行者を中心にやや伸び悩んで低調であったが、持ち直した。伸び率は2月7.6%3月9.8%と1ケタ台だったが、1月以来3か月ぶりに20%台に戻り、1～4月通算でも16.4%となった。

4月は、航空座席供給量の増加などを受けた韓国市場の伸びが訪日者数全体を牽引。イースター休暇が今年は4月(昨年は3月末)になったことの他、清明節やタイ正月、学校休暇など各市場の休暇や祝日が訪日需要の増加に貢献した。さらに、桜をはじめ日本の春の魅力が浸透してきたことも、訪日旅行への意欲喚起に繋がった。

市場別では、韓国は前年4月14日に発生した熊本地震を受けた訪日敬遠の反動もあり、前年同月比56.8%増の55万4千人と昨年同月を大幅に上回り、1月からの累計でも30.8%となった。中国は、前年同月比2.7%増の528,800人で一桁台の伸び率となった。1月～4月の平均伸率の9.6%で増加幅は抑えられ1～4月累計数でも韓国に抜かれて2位となった。他の市場では、台湾、香港、タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム、インド、米国、カナダ、英国、フランス、ドイツ、ロシアの13市場が単月として過去最高を記録した。

尚、観光庁田村明比古長官は記者会見で、本年の訪日客が5月13日に1千万人を超える過去最速のペースであると発表した。

「図で考えれば、世界が見える！」

～大観光時代とグローバル言語～



多摩大学副学長 久恒 啓一 氏

久恒氏は1950年大分県中津市生まれ。九州大学法学部卒業後、1973年日本航空入社。在職中から「知的生産の技術」研究会など社外の勉強会で活動し、1990年に「図解の技術」(日本実業出版社)を刊行。それをきっかけに日本航空を早期退職し、宮城大学教授に就任。2008年多摩大学教授に転身し、2015年より副学長。NPO法人知的生産の技術研究会理事長、大いなる多摩学会副会長、日本未来学会理事。官庁、企業、教育機関などで講演多数。ベストセラー「図で考える人は仕事ができる」など著書は100冊を超える。

講演内容は多岐にわたり、プロジェクトを駆使した多数の図面とその内容を概要に纏めるのは簡単ではないが、要約してお伝えする。(編集部)

図を作るには、頭の整理が必要

自身の経歴と多摩での活動を、鳥瞰図を使用して紹介された後、本論に入った。文字で書かれた文章を理解するのはなかなか難しい。箇条書きを、考えもなく文書で羅列されても、重要度の大小、因果関係、重なり具合などが示されていない。図解するには要点のみをキーワード化する。そして全体構造を理解し、物事の関係を理解した上で重要度に応じて図にする位置や大小を考え、関連する事項の配置を考える。より良い図を書く努力を続ける人は、図と共に人としても進化していく。梅棹忠雄氏の画期的な説「人類の歴史」や日本史の図解を示しながら説明が続く。

様々な分野を図解する

「図で考える人は仕事ができる」がベストセラーになった頃

COLUMN

少子高齢化社会

「少子高齢化」社会が言われるようになって久しい。平均寿命は延びる一方で、年々出生率の低下により生まれてくる子どもの数が減り、国の成長を支える人口動態もいびつな形になり、経済の先行きに黄信号が灯っている。

国の統計では65歳以上の人を高齢者と定義しているが、国連では高齢者は60歳からとみている。これも日本人の長寿を示唆しているひとつの表れと言えるだろう。

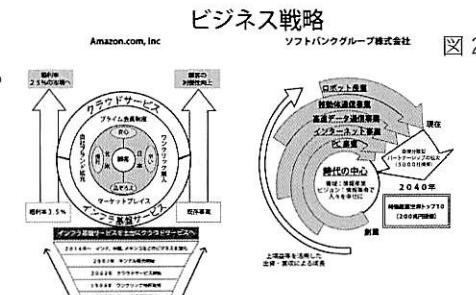
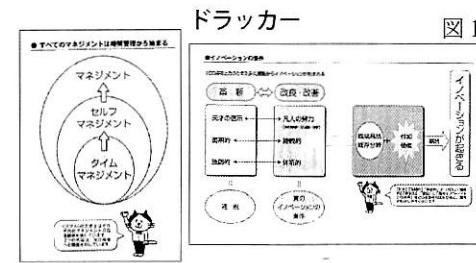
過日法隆寺長老の高田良信師が「老衰」で亡くなられた。今や男の平均寿命が80歳を超えていた時代に、「老衰」とはさぞかなりのご高齢かと思いきや、失礼ながらまだ76歳になったばかりの新米「後期高齢者」だった。いまどきこの御年で「老衰」とは少々違和感がある。まるで童謡の十五で娘やは嫁に行き～♪や、♪村の渡しの船頭さんは今年六十のおじいさん～♪のように、この高齢化時代を未だに昔の老けこんだイメージで考えられているのではないだろうか。

から、名著、白書、ビジネス理論、ビジネスモデル、歴史など様々な分野を図解するように依頼される事が増えた。マルクスの「資本論」やドラッカーの「マネージメント」(図1)の図解、ユニクロの経営戦略や、アマゾンとソフトバンクグループとのビジネスモデルの違い(図2)などの図解を示しながら説明された。大学の社会人講座では人生鳥瞰図を作成する指導も行っている。

大観光時代の課題と提言

観光はサービス産業の中心であるが、シンガポールその他の国に比べると長期的戦略に欠けている。又、人材育成も不十分であり、観光業界の地位も低い。給料が安く長時間労働で学生達から敬遠されている。大観光時代を迎えるに当たり、日本とは何かを説明できる構造的理解に欠けている。何を、誰に、どのように伝えるか分野別に伝える努力が必要である。例えば、「わび」「さび」は茶道や華道で、侘しい、寂しいという否定的概念を肯定的に転換したものである。国内旅行は温泉グルメばかりでなく知的な旅の提言も必要だ。

最後に質疑応答があり、講演終了後の意見交換会でも活発な意見が交わされた。



古来長寿には区切りの好い年齢ごとに慶祝の言葉があり、かつてミスター巨人軍の長嶋茂雄さんが「初めての還暦を迎えた」と言って笑いを誘った60歳還暦に始まり、古希、喜寿、傘寿、米寿…111歳の皇寿までその数は10種に及ぶ。ひょっとすると長嶋さんの長寿への期待を膨らませた「2度目の還暦」?まで祝うようになるのではないだろうか。

「後期高齢者」入りしてから、空元気を出して「後期高齢者」を返上し「光輝高齢者」だと周囲に吹聴していた。慶應病院人間ドック検診の折、応援歌「若き血」に便乗して♪～『光輝』充てるわれら～♪の「光輝高齢者」だと自己PRして、医師から「その言葉は元気が出ます。いただきましょう」と言わされた。その後「香気」併せて「高貴高齢者」にまで上り詰めた。せいぜい「好奇高齢者」に見られぬよう自戒しつつ、「高貴高齢者」仲間ともども残り少ない「光輝」溢れる余生を、「高貴」に楽しむ「好機」にしたいと願っている。

エッセイスト 近藤 節夫